

～日本と海外5カ国に聞いた「水道水に関する意識調査」～ 世界有数の「水安全国」日本、安心が仇に？ PFAS認知度は6か国中で最下位。正しい理解が鍵

株式会社ナック（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：吉村 寛）はこの度、当社が展開する安心・安全なおいしい宅配水「クリクラ」（クリクラビジネスカンパニー代表：川上 裕也）において、日本とアメリカ、ドイツ、イギリス、アイルランド、ニュージーランド（水道水の飲用適性が高く、国として水質管理の制度・基準が整備されている主要国を選定）（※1、およびP4掲載の各国水質管理体制比較表）を対象に、「水道水に関する意識調査」を実施しました。

調査サマリー

Nac

POINT 01 安全に水道水を飲める国である日本—6カ国中水道水を一番「飲まない」

日本の水道水飲用率（毎日飲む層）は約42.7%
他国（ニュージーランド 74.3%、アイランド 69.4%、イギリス 60.0%など）に比べて低い

POINT 02 水道水を飲まない理由—日本では「味」と「安全」がほぼ同率

味 46.0%、安全 47.8%
他国は「安全」が優勢（アメリカ・イギリス・アイルランドは約63-67%）

POINT 03 PFAS（有害化学物質）に関する理解度は日本で最も低く、14.3%にとどまる

アメリカ・ドイツ・イギリスは理解層が30%台で高め

その結果、海外は多いところで74%の人が日常的に水道水を飲む一方、日本の水道水飲用率は42%に留まりました。水道水を飲まない理由として、海外では「安全性」重視の人が多い一方、日本は「安全性」とほぼ同率で「味」を重視する人が多く、安全性への意識が海外に比べて低い傾向にあることが分かりました。また、有機フッ素化合物（PFAS）についての理解度は、日本が6か国中で最も低い結果となりました。

（※1）出所：国土交通省「令和7年版 日本の水資源の現況」（第7章 水資源に関する国際的な取組 図7-1-7 世界の水道水の現状 113P）
<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/content/001902538.pdf>

調査背景

日本の水道水はWHO基準を上回る厳しい検査体制で管理され、世界でも数少ない「安全に水道水を飲める国」です。しかし近年、有機フッ素化合物（PFAS）と呼ばれる化学物質が世界的に問題視され、日本でも一部地域の水道水や地下水、河川などからPFASが検出されました。水の安全性が不安視されるなか、日本でも2026年4月の水道法改正で水質管理の基準がより厳格化される予定です（※2）。一方、天然水からもPFASが検出され事例も報告されており、「自然由来＝安全性を保証」とは必ずしも言えなくなつたいま、日常的に口にする水への正しい理解が求められています。

このような背景を踏まえ、日常的に水道水を飲む国々における水道水の飲用状況や飲まない理由、PFASに関する認知・理解度を分析し、日本の消費者意識の特徴を明らかにしました。

（※2）出所：東京都水道局「水道水の安全性（有機フッ素化合物について）」

<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suigen/pfcs2>

調査概要

調査名：水道水に関する意識調査

調査方法：インターネット調査

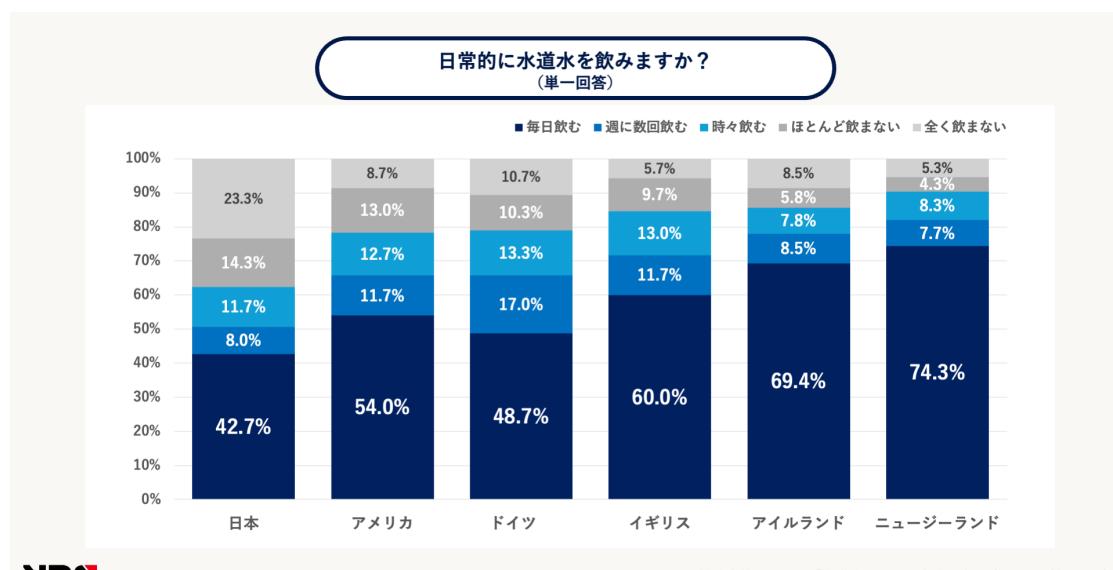
調査期間：2025年10月22日～10月28日

対象：日本、アメリカ、ドイツ、イギリス、アイルランド、ニュージーランドの20代以上、各300名（計1,800名）

調査結果

1. 水道水の飲用状況：日本は42.7%で最下位、「全く飲まない層」は他国の2倍～4倍

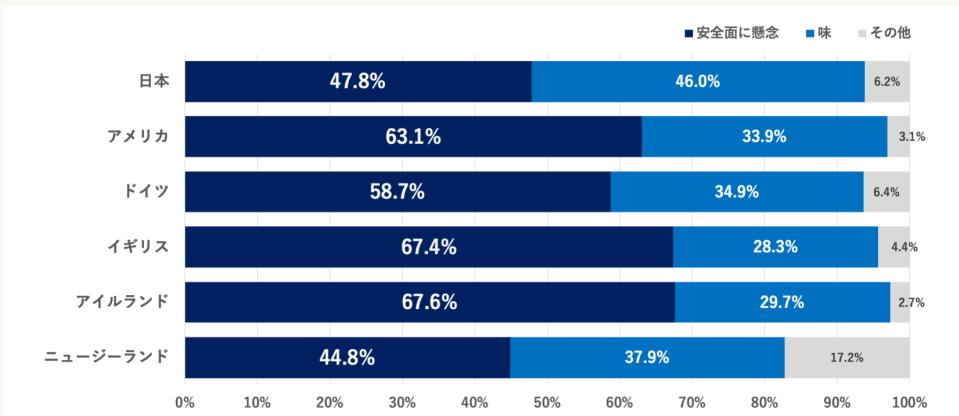
海外では水道水を日常的に飲む割合が高く、ニュージーランドで74.3%、イギリスで60%、アイルランドで69.4%となりました。一方、日本は42.7%と6カ国で最も低く、「全く飲まない」層も他国に比べて割合が多いことがわかりました。



2. 水道水を飲まない理由：海外は「安全性」を重視。日本は「味」も飲まない理由の一つに

アメリカ、イギリス、アイルランドでは「安全面に懸念」が6割を超え、安全性を優先する傾向が示されました。一方、日本では「安全面に懸念」とほぼ同率で「味」を選んだ人がいたことから、水道水に安全性とおいしさの両方を求めていることがわかりました。

ほとんど飲まない/全く飲まない理由について最も当てはまるものをお選びください。
(単一回答)



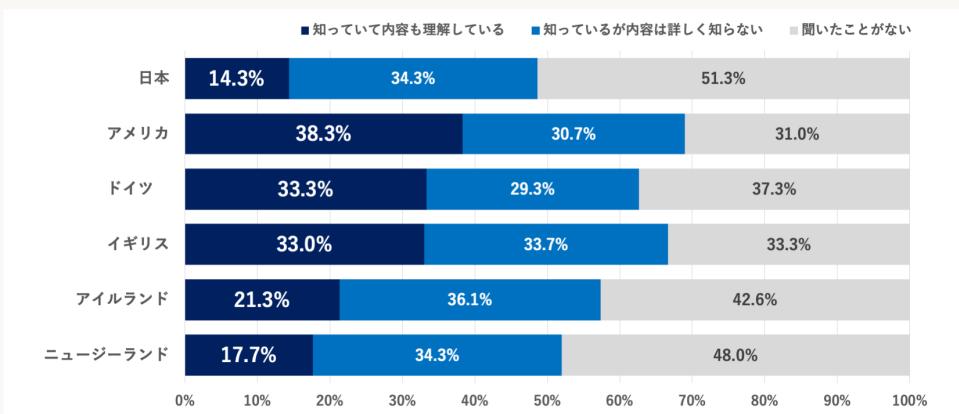
Nac

株式会社ナック：「水道水に関する意識調査」(n=日本113/アメリカ65/ドイツ63/イギリス46/アイルランド37/ニュージーランド29)

3. 世界のPFAS認知度：日本人のPFAS認知度は6カ国で最下位——半数以上が「聞いたことがない」と回答

アメリカ、ドイツ、イギリスでは3人に1人以上がPFASを「知っていて内容も理解している」と回答しました。一方、日本ではPFASを「聞いたことがない」と回答した人が 51.3% と過半数に達し、6カ国で最も高い結果となりました。

PFAS（地下水や河川から検出されており、発がん性など健康被害の可能性があるとされている物質）という言葉を知っていますか？(単一回答)



Nac

株式会社ナック：「水道水に関する意識調査」(n=1800/各国300)

まとめ「日本人の水選びに潜む意識の差——安全性理解が求められるPFAS問題」

今回の調査から、日本人の水選びには海外との意識の差があることが明らかになりました。海外では水道水において多くの国が安全性を最も重視する傾向が強く、PFASのリスクへの認知も進んでいます。一方、日本は、PFASの認知度が6カ国で最も低く、水の安全性に関する正しい理解やPFASへの認知が十分に浸透していないことが明らかになりました。

日本は水の安全性が高いといわれるがゆえに、その安心感が見えないリスクへの理解を遅らせる要因となっている可能性も示唆されます。PFASは目に見えない化学物質であり、地下水や天然水からも検出される事例が報告されています。正しい理解が必要とされる今、確かな情報に基づく選択がますます重要になります。

参考情報

《 各国水質管理体制比較表 》

国名	水道水インフラの状況	PFAS等の規制状況	主なエビデンス（出典）
日本	世界最高水準の基準（51項目）適合率99%以上で全国飲用可能	2026年4月より基準項目化PFOS・PFOA合算50ng/Lを設定予定	環境省「水質基準項目と基準値（51項目）」 https://www.env.go.jp/water/water_supply/kijun/kiyunchi.html
アメリカ	安全飲料水法（Safe Drinking Water Act - SDWA）に基づき、EPA（環境保護庁）が水質基準を設定 水道水の安全性は地域により差があるが、基本的に飲用可能とされる	2024年の主な動向：PFAS（有機フッ素化合物）について厳格な新規制を導入：PFOS・PFOA: 各4 ng/L（日本の暫定目標値の約1/10）	United States Environmental Protection Agency (US EPA) https://www.epa.gov/sdwa
イギリス	監督機関：飲料水監察局（DWI）が水質規制を監督 水質適合率：2024年の公共水道供給の水質基準適合率は99.97% 国際評価：2024年環境パフォーマンス指数（EPI）で飲料水品質が世界第1位（スコア100.0）	EUの指令（改訂飲料水指令2020）に準拠し、PFOS/PFOAなどの基準値（100ng/L）が設定され監視	Drinking Water Inspectorate, Annual Report 2024 https://www.dwi.gov.uk/what-we-do/annual-report/drinking-water-2024/
ドイツ	飲料水令（Trinkwasserverordnung - TrinkwV）により厳格に規制。水源：約70%が地下水を水源とし、地層による自然ろ過で高品質を維持	新飲料水令の施行：2023年6月よりEU指令を国内法化 20種類のPFAS合計値（100ng/L）と、PFOS, PFOA, PFNA, PFHxSの4物質合計値（20ng/L）が設定	Federal Ministry of Health (BMG), Drinking Water – Overview https://www.bundesgesundheitsministerium.de/en/topics/drinking-water.html
アイルランド	監督機関：環境保護庁（EPA）が飲料水品質を監督 水質適合率：2024年の公共水道供給における水質基準適合率は99.8%以上	EU規則2023に準拠最新の欧州基準に基づき管理 「PFAS Total（全PFAS合計）」 = 0.50 µg/L (500 ng/L)	Environmental Protection Agency (Ireland), Drinking Water Quality in Public Supplies 2024, 2025. https://www.epa.ie/publications/compliance-enforcement/drinking-water/annual-drinking-water-reports/FINAL-EPA_DrinkingWaterQualityinPublicSupplies2024-v1.4.pdf
ニュージーランド	Taumata Arowai（水道サービス監督局）が2021年より飲料水規制を担当。2024年末時点で約400万人（総人口約440万人中）が適切な処理パリアを備えた水道水にアクセス	飲料水中のPFAS濃度に関して以下の法的基準（MAV） PFOA（ペルフルオロオクタン酸）：560 ng/L PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）+ PFHxS（ペルフルオロヘキサンスルホン酸）の合計：70 ng/L（Sum PFHxS+PFOS）	Taumata Arowai. Legislation. https://www.taumataarowai.govt.nz/about-us/legislation

見えないリスクPFASを除去 ——クリクラが提供する安心・安全なRO水

— ROミネラルウォーターとは

PFASなどの化学物質に対して、最も効果が高い除去技術とされているのが「RO膜（逆浸透膜）」です。RO膜は、極めて細かい孔を通して水分子以外の不純物を分離し、一般的な浄水フィルターでは除去できないナノレベルのウィルスや放射性物質、PFASを限界値まで取り除くことができます。クリクラの水は、厳しい水質基準をクリアした日本の水道水を原水に採用し、RO（逆浸透膜）フィルターにより不純物やPFASなどの化学物質を取り除き、水の純度を高めたRO水です。



更にクリクラでは、独自の自主基準を設定し、より厳しい検査を実施しています。そして、すべての基準をクリアした水に良質なミネラルを加え、味とミネラルバランスを整えることで、毎日おいしく飲める水に仕上げています。クリクラは全国約600の産婦人科などにも導入されており、安心な水として信頼を獲得しています。

— 第3者機関によるPFAS検査を実施

より安心安全に飲んでいただくために、クリクラでは第3者機関によるPFAS検査を実施しています。これまでの検査でPFAS（PFOS/PFOA）が検出されたことはありません。

▼検査結果の詳細はこちら▼

<https://www.crecla.jp/pfas/#anchor01>

— 徹底的な品質管理を行うクリクラ中央研究所

＜クリクラ中央研究所 小林 麻比＞

2011年4月に、宅配水の研究開発を行う国内初のR&Dセンター「クリクラ中央研究所（東京都町田市）」を開設。施設内には、「微生物検査室」「官能検査室」「サーバー検査室」の3つの専門設備を設け、原材料から製品までの品質調査（理化学検査・微生物検査・官能検査）、クリクラの更なる安全性を確保する為、品質に関わる研究開発等を実施してまいりました。

今後も安心安全でおいしい水を多くの皆さまにお届けできるよう取り組んでまいります。



- ・クリクラの水質へのこだわり
<https://www.crecla.jp/about/?fpc=171.8.365.6d80e220d46f5eep.1791432301527>
- ・クリクラの品質管理体制
<https://www.crecla.jp/quality/?fpc=171.8.365.6d80e220d46f5eep.1791432301527>

補足資料

■株式会社ナックについて <https://www.nacoo.com/>

当社は、1971年に株式会社ダスキンのフランチャイズ加盟店として創業して以来、「暮らしのお役立ち」を軸として、積極的な事業領域の拡大を行ってまいりました。2021年には創業50周年を迎え、現在ではダスキン事業を中心とするレンタル事業に加え、宅配水事業を展開するクリクラ事業、地場工務店の経営支援を行う建築コンサルティング事業、住宅事業、美容・健康事業と、「暮らし」と「住まい」に関わる幅広い領域において全国のお客様とダイレクトにつながりを持ち、さらなる成長を続けております。

■クリクラについて <https://www.crecla.jp/>

クリクラは、2002年の事業開始以来、「安心・安全」を理念に、現在約400拠点の配送ネットワークでご家庭やオフィスに直接製品を配送しています。環境に配慮したサステナブルなボトルの採用や輸送によるCO2削減、サーバーの100%リサイクルなどの循環型社会を目指した取り組みを行うとともに、今後もクリクラに携わる研究員、メンテスタッフ、配送員などすべてのプロフェッショナルが協力し、お客様へ安心・安全なお水をお届けしてまいります。

会社概要

社 名	株式会社ナック
設立年	1971年5月20日
資本金	6,729,493,750 円
代表者	吉村 寛
社員数	連結1,698名 (2025年9月末現在)
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル42階
電話番号	03-3346-2111 (代表)

〈本件に関するお問い合わせ〉

株式会社ナック IR・広報室 担当: 加藤

TEL: 03-3346-2870 / FAX: 03-3348-4311 MAIL: irpr@nacoo.com